

## 第2回 中札内村景観まちづくり委員会 会議録

日 時 令和4年3月25日(金) 18:30～19:50  
場 所 役場庁舎 会議室1  
出席委員 金澤和彦、下埜智加、片山祐二、保坂裕子、嶋崎陽介、歌野裕美、飯沼かおり  
欠席委員 中田洋介  
アドバイザー 斉藤浩二  
事務局 総務課長 川尻年和、総務課長補佐 渡辺大輔、総務課主査 竹村幸二、総務課主事 小関梨菜

### 議 事

開 会 18:30

(川尻課長) こんにちは。お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。蔓延防止措置が解除されましたが、8時過ぎには終了したいと思います。よろしくお願いします。

(会 長) こんにちは。冬も終わり春が近づいています。ウクライナの戦争が毎日報じられています。恐らく景観の綺麗な国だと思いますし、早く平和が戻ってきてほしいところです。また、自分たちは、平和や環境を守っていく必要があると感じています。景観づくりについて改めて取り組むことが重要です。

－ 竹村主査 資料1に基づいて説明 －

(会 長) ボランティアゴミ袋の配付開始は、いつからですか？

(竹村主査) まだ、決まっていないと思います。春頃でしょうか。

(会 長) 散歩する人が多いですし、子どもにも拾ってもらえると良いですね。どうせ散歩するならゴミ袋を持参で散歩していただく。そのあたりを意識していただければと思います。

－ 竹村主査 資料2に基づいて説明 －

(竹村主査) 令和4年度に景観ツアーを復活したいと思っています。意見あれば後ほどグループLINE でお願ひします。

(会 長) 清里町は、景観行政団体なので規制することはできるのではないのでしょうか。

(竹村主査) 景観行政団体は、自らルール（規制）をつくることができますが、そのルールが弱い  
ため意味をなしていないようです。逆に黒松内町は厳しすぎるかもしれません。両  
町とも話を聞きたいと考えています。清里町と黒松内町どちらか皆さんと行き、ど  
ちらかは事務局のみで行くこととしたいと思います。

(会 長) 視察先について皆さんからご意見いただきたいと思います。

(委 員) テーマが難しいです。インスタで他の町村を見ていると黒松内がネイチャーツアー  
を実施していて、景観ツアーで環境など扱うのであれば参考になりそうです。

(委 員) 村の人間としては清里町が広々としていて村と似ていると思っています。専門的な  
部分は分かりませんが。

(委 員) 黒松内町はツアーを企画しています。植物の会で黒松内にいった方がいるのですが、  
学芸員が案内してくれたそうです。村の学芸員を育てることや、発掘することを考え  
るのも村の魅力を向上する手段ではと思います。浦幌町では、学芸員に着任した方が  
歴史や植物の情報発信をしているので村もそのような取り組みをすれば子どもたちにも  
魅力が伝わるのではと思います。

(委 員) ネイチャーガイドが黒松内にいるとのことなので、村にもいれば子どもたちにも伝  
えられると思いました。黒松内町に行ってみたいですね。

(委 員) 日本一美しい村、農業の村の目標を達成するための具体的な取り組み、近年の景観  
への考え方が変わってきていると感じています。人工的なやり方ではなく、自然のあ  
りのままを大切にする考え方です。清里町は、取り組みが人工的な印象を受けました。  
黒松内町の方がもともとある自然や文化を大事にしている考えがあり今の雰囲気合  
っていると思います。

(委 員) 両町とも行ったことはありません。12月の暴風被害の際、防風林の大切さを実感  
しました。防風林がある方は、被害が少なく済んでいます。子供の頃から、自然とと  
もにする行事があったら良いと思います。以前は、中札内村で「風とともに」や「川  
とともに」といった自然と触れ合う行事が学校でありました。札内川でいかだ下り  
をしたり、気球に乗った記憶があります。そういう行事が復活すればうれしいですね。

(委 員) 上札内は、山村留学で熱気球をあげていますね。

(齊藤アドバイザー) 農村景観ガイドプランを策定した当時は、いわゆる普通の農村景観をテーマに、こうしたガイドプランを作ったのは全国でも初だったと思います。非常に注目されました。歌野さんがおっしゃった今の価値観と違うところがありますし、今読むと稚拙なところがあるのも事実です。これからの時代、ゾーニングはどうすべきでしょうか。農地に市街地景観が入ってきているので境目がはっきりしていません。樹林はどうあるべきかでしょうか。専門家の目で調査をする必要があります。村の現況を調査し景観計画を策定するという流れが大切です。どこまで規制をかけるか村としての考え方を整理する必要があります。今回視察する自治体だけでなく他も調べた方が良いでしょう。ニセコや倶知安町、恵庭市も景観に力を入れていて非常に勉強になると思います。

(会 長) 規制を緩くするのか厳しくするのか。決めていくということでしょうか。

(齊藤アドバイザー) 規制については条例で規定するので、計画の中で考える必要はありません。条例にうたわれていれば、それが判断材料となります。たとえば〇〇の事業をするなら、地域住民の総意を必要とするとか。条例がしっかり出来たらある意味この委員会もいらなくなります。

(会 長) 理想だけ掲げるのではなく、実行できる仕組みをつくるのが大切だということですね。小さくても輝くまち、質の高い村づくりを目指すことになるのではと思いました。ロードマップによると景観調査は次年度実施する予定ですね。

(竹村主査) 景観行政団体を目指すうえで、調査後に計画を作って、道から景観行政団体の指定を受ける際、条例改正が必要です。規制の内容を含めどうしていくか次年度から検討しなければなりません。

(会 長) 連合から改善点の中で防風林が魅力の一つとして評価されています。その認識を高めるチャンスではありますね。

(委 員) 防風林を伐採していたため、車庫のシャッターが壊れました。そのことで防風林の大切さに気付いたところです。周辺の防風林がある家は無傷でした。

(齊藤アドバイザー) 清里も防風林があります。細いカラマツが一行ですがあって、宇宙展望台から見ると十勝と似ています。まちの中の花づくりは当時から盛んでした。この村との共通性があると思います。清里町で防風林に対してどうしているか現状を聞いてみたいですね。

(竹村主査) 以前伺った際は、道路際にコスモスを植えていました。

(齊藤アドバイザー) あれは、農家の人たちが植えているものですね。

(会 長) 市街地の景観が大切なので、村長に提言しているところです。これは第一の課題だと思います。連合からの指摘事項としては、「ガイド」と「教育」があげられていますが、景観ツアーを行いすごく勉強になったと思っており、簡単なガイドならできるようになりました。知的好奇心を持ってもっと知りたいと思いますね。教育の魅力を小さなころから感じてもらうことが大事です。恒例行事にすれば間違いなくできるでしょう。村だからできる景観教育、環境教育を行政として考えてほしいところです。エネルギーの自給自足については、道外では、木材供給やバイオ燃料も小規模でもやっていると思います。私の自宅は、十勝産のカラマツ材を利用しています。暖房は燃料ペレット（みのり園）を定期購入しています。以前は足寄や浦幌のものを利用していました。ペレットの普及をしたいですが、みのり園のキャパシティが追い付かないみたいです。ストーブを買うときに国から補助金をもらいました。村で補助金があれば良いかもしれませんね。

(竹村主査) 北海道では、ゼロカーボンを推進しており、何か村でも考えなければと思っていました。参考にさせていただきます。

景観ツアーは委員会として実施となると、報償がからむのでワーキンググループのボランティアというかたちで以前同様に出来たらと思います。移住座談会のメンバーを誘って加入してもらえると良い科学反応が起きるかもしれません。

(会 長) 移住座談会メンバーは、非常に熱心ですよ。

(竹村主査) 景観ツアーは、前回5月から準備をして大変な思いをしましたが、前回のベースを活かすならそれほど大変ではないかもしれません。

(齊藤アドバイザー) 街の中をゆっくり見て歩く、身近な景観を改めてみるのも良いのではないのでしょうか。小中学生の通学路とか。

(委 員) 以前、農村部でツアーをやったので市街地もやりたいという話がありました。

(竹村主査) ウォーキングマップが使えますね。令和4年度に増刷します。

(会 長) 次回検討でしょうか。

(竹村主査) 5月頃委員会で話したいと思います。

(会 長) 市街地の魅力再発見もできるし、成果を他にも活かせるのではないのでしょうか。観光客向けのマップとか。

(斉藤アドバイザー) ロードマップにある啓発活動はやっていくということでよいですね。学校シーニックはどうでしょうか。

(竹村主査) 学校シーニックはなかなか難しいかもしれません。昨年は、なんとか1回実施できましたが。

(斉藤アドバイザー) 村独自の景観学習をやることをめざしてはどうでしょうか。ロードマップについても、村の人みんなが知ってほしい内容です。制度などが出来上がってからではなく今から村民に周知していく必要があります。委員の皆さんも意識して周りに話をしてください。どこまで規制するか等は、村民が考えるベースを作りしっかり考えて意見をもらう、それが良い計画につながると思います。

(会 長) 広報活動に取り入れてはどうでしょうか。

(竹村主査) SNS を活用していきたいと思います。ずっと残したい風景を募集するために作ったインスタグラムアカウントですが、こちらからの発信にも利用しています。ここに村の景観への考えなども少しずつ発信していくこと大事だと感じました。いきなり規制の話ではなく、少しずつ情報発信し下地を作っていくというか。

(会 長) 景観委員の当番制でSNS アップするとか良いかもしれませんね。村民の立場から。以上で景観委員会を終了したいと思います。おつかれさまでした。

閉 会 19 : 50